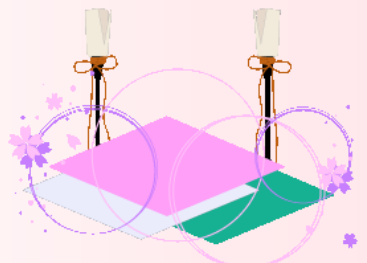


暮らしの瓦版

2010年03月号



「木造軸組工法の家」の魅力(18)



【伐つて守る森林】今、世界規模で拡がる問題に、地球温暖化現象や生物多様性の喪失危機などがあります。違法伐採による森林減少はそれらの傷口を広げています。中国、ロシア、熱帯諸国の木材生産のうち違法に伐採された木材は、国によって10%とも、90%とも言われています。この違法伐採は、森林を回復不能なまでに荒廃させ、二酸化炭素の放出、生物多様性の喪失など、様々な悪影響を及ぼしています。では、日本への影響にはどのようなものがあるのでしょうか。違法伐採の木材によって、木材市場価格が不当に下がります。そして、日本の林業が生業として成り立たなくなり森林の伐採や手入れができなくなり、結果、森林が劣化して森林の機能が無くなってしまおうということが考えられます。日本の森林は伐つて守らなければなりません。具体的に日本の森林を伐つて守るには、消費者に「違法伐採の木材を使用しない」といった断固たる決意が必要で、まずは、国がリーダーシップを取り、2006年4月、グリーン購入法の中で政府調達による木材や木材製品は合法木材を優先使用する旨を盛りこみました。これにならない、各地方自治体も現在、努力しているところですが、住宅関連の優良企業の中には、これにならおうという流れができつつあります。この仕組みが根付くためには、合法木材が日常的に売り買いされるようにしなければなりません。森林経営者は、森林認証機関の定められた基準に基づいて経営されているかどうかを評価する制度を活用することにより、合法木材の出荷が可能になります。森林認証機関は各国にまたがる組織やその国独自の組織、相互認証をしている組織など様々です。国内の認証林面積は年々増加しています。さらに、加工・流通過程の管理の認証としてCoC認証制度も合わせて取得すると、流通の最後に受け取る購入者も合法木材であることが確認できます。国産材需要の約6割は住宅に利用されている製材品です。合法木材の流通で木材市場が健全化され、国産材による木造軸組工法住宅が増えれば、日本の森林を維持することにつながるのではないのでしょうか。私たち自身の選択が森林を守ることに繋がると思うと嬉しいですね。

季節の風物詩 「雛祭り／桃の節句」



女の子の健やかな成長を願う伝統行事。雛人形を飾り、白酒・菱餅・あられ・桃の花等を供えます。昔は上巳の日に、人形に穢れを移して川等に流してしまいましたが、その人形を流さずに飾っておくようになり、今の雛祭りのように発展していきました。雛祭りにつきものの菱餅は元々、宮中でお正月に供えた「菱はなびら餅」がルーツだといわれ、雛祭りに用いられるようになったのは江戸の中期頃。緑(よもぎ)は健康、紅(桃の花)は魔除け、白は清浄を意味しています。

生活メモ 「春分と春彼岸」



【春分】春分は二十四節気のひとつで毎年3月21日頃。また、この日から清明(4月5日頃)までの期間も春分といわれます。『暦便覧』には「日天の中を行って昼夜等分の時なり」とあります。春分には昼と夜の長さがほぼ同じになります。実際には昼の方が夜よりも長く、日本付近では平均して昼が夜よりも約14分長くなります。春分の日、国立天文台が算出する天文学的な春分日をもとに閣議で決定され、前年の2月に官報(『暦象年表』)で告示されます。古来、人々は春分の日を「春の訪れを祝う日」としていました。それと同時に祖先に感謝をするお祭りをを行い、この風習は農村部で長く続いてきました。春分の日という「お彼岸」のイメージが強く残っていますが、この日を境に次第に昼の時間が長くなり、本格的に春になってゆきます。

【春彼岸】彼岸(ひがし)は雛祭りのひとつ。春彼岸は春分を中間に、前後各3日を合わせた7日間をいい、また、この間に行われる仏事・法要(彼岸会)をいいます。彼岸はサンスクリット語の「parimiti」の漢語訳「到彼岸」の略。「彼岸」は煩惱から脱した悟りの境地をさす言葉で、浄土思想では極楽浄土を西方の彼方にあると考えており、春分には太陽が真西に沈むため、西方にある太陽を礼拝し極楽浄土(西方浄土)に思いをはせ、そこに生まれ変わることを願いました。また、昼夜の長さが等しいことから、仏教の説く「中道」の教えにもかなうとされました。日本では先祖供養、墓参などの仏事・法要へ変化し、社会的な風習として根付いていますが、彼岸は日本特有のもので、彼岸の供物である「ぼたもち」「おはぎ」は同じもの。うるち米ともち米を混ぜて炊き、米粒が残る程度について小ぶりの俵状にまるめ、餡をまぶします。通常、「ぼたもち」は春に「牡丹餅」、秋に「御萩」と呼ばれています。しかし、実際には(現代ではほとんど使われていないものの)夏と冬にも正式な呼び名が存在します。季節ごとの「ぼたもち」の呼び名とその由来を挙げてみます。

◇春 牡丹餅 牡丹の花が咲く季節、すなわち春の彼岸に、神仏や先祖への供物とされた小豆餡の様子を、牡丹の花に見立てたことから。和漢三才図会には「牡丹餅および萩の花は形、色をもつてこれを名づく」と記されています。

◇夏 夜船 ぼたもちは餅と作り方が異なるため「ペタン、ペタン」のような音を出さずに作る事ができます。そのため、隣に住む人には、いつ搗(つ)いたのか分からない。そこで「搗き知らず」↓「着き知らず」と言葉遊びをして、夜は暗くて船がいつ着いたのかわからないことから。

◇秋 御萩 牡丹餅と同じく、小豆餡の様子を秋の彼岸の時期に咲く萩の花に見立てたことから。

◇冬 北窓 夜船と同じように「搗き知らず」↓「月知らず」と言葉遊びをして、月を知らない、つまり月が見えないのは北側の窓だ、ということから。

生活メモ 「ショパン生誕200年」



フレデリック・フランソワ・ショパンはポーランド出身の前期ロマン派音楽を代表する作曲家です。当時のヨーロッパにおいてもピアノリストとして、また作曲家として有名でした。その作曲のほとんどをピアノ独奏曲が占め、ピアノの詩人とも呼ばれ、様々な形式、美しい旋律、半音階的和声法などによってピアノの表現様式を拡大し、ピアノ音楽の新しい世界を切り開きました。ノクターン、別れの曲、英雄ポロネーズ、幻想即興曲、子犬のワルツ、革命のエチュード、雨だれの前奏曲、華麗なる大円舞曲、軍隊ポロネーズなど多くの名曲を残しました。

ショパンのピアノ音楽は、それまでの作曲家の書いたピアノ音楽には無かった、非常に繊細で抒情的な美しさや、ダイナミックな表現で、さまざまな感情の込められたものなど、独自の工夫を感じさせるものが多く、オペラや交響曲には目もくれず、ピアノという楽器に没入したショパンならではの音楽表現の可能性の探求がなされているのが大きな特徴でしょう。人生の中心がピアノだったショパンは、作曲した曲もほとんどがピアノ曲ですが、わずかながら室内楽曲や歌曲も書いています。チェロ・ソナタやヴァイオリン・ソナタにも着手し、ショパンがピアノ曲以外のジャンルにも積極的に取り組んでいたことが推測されています。歌曲については、歌手の母親の影響や、歌手だった恋人たちの影響もあるものと思われています。

ショパンは1810年3月1日(2月22日説あり)誕生し、1849年10月に亡くなりました。昨年は没後160年、今年2010年は作曲家ショパンの生誕200年にあたる記念の年。39年の短い生涯を、作曲とピアノ演奏で駆け抜けた「ピアノの詩人」の素晴らしい音楽が世界中で鳴り響きます。世界各国でさまざまなコンサートやイベントがおこなわれ、CDやDVDなど、数多くの音楽ソフトもリリースされ、ショパンの音楽が過去最高の注目を集める年になりそうです。

「パラリンピック」

脊髄障害者の国際スポーツ大会。英国のストーク・マンデビル病院の医師グットマンが始めたのがきっかけで、1952年国際大会が開催され、現在は四年に一度オリンピック開催地で開かれます。その名前は、Paraplegia(下半身マヒの意味)とOlimpicの合成に由来し、paraには「もう一つの」という意味もあり、もうひとつのオリンピックとも言われています。元々、IOCとは関係はありませんでしたが、ソウルオリンピック以後、オリンピック開催後に同じ場所でパラリンピックを開催することが義務付けられました。パラリンピックには障害の度合いに応じた階級が存在します。また障害種は[運動機能障害][脳性麻痺][切断など][視覚障害]があり現在は聴覚・知的・精神各障害者は出場ができません。

修繕 リフォームから新築工事の建物の事
 優良土地活用から物件探索の土地の事
 北本建設株式会社
 埼玉県北本市古市場3-131 TEL: 048-591-1234
 URL: http://kitamoto.net/kitaken/ FAX: 048-591-0019

3月 暮らしのカレンダー

弥生、花月、季春、晩春、建辰月、桜月、早花咲月、蚕月、桃月、花見月、春惜月、晩春、雛月、夢見月

| | | | |
|-----|----------|-----|--------|
| 3日 | ひな祭り／耳の日 | 14日 | ホワイトデー |
| 6日 | 啓蛰 | 18日 | 彼岸の入り |
| 10日 | 東京大空襲記念日 | 21日 | 春分の日 |
| 13日 | 二月堂お水取り | | |